

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 二年次生 K.S

はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、オーストラリア薬学語学研修に参加しましたので、その内容について報告いたします。

## 1) 渡航前に考えていた自分の目標

私は英語力の向上、文化の違いを積極的に学び、肌で感じることを目標にこの研修に参加しました。

## 2) その目標は渡航後どうだったか

### ・英語力の向上について

渡航して初めの方は、ホストファミリーとの会話も何度も聞き返したり、言いたいことが伝わらなかったりと苦戦しました。しかし、英語レッスンで学んだ英語を実践したり、ホストファミリーとの会話で分からなかった単語を復習したりすることで、だんだんと円滑にコミュニケーションを取ることができるようになりました。実際に、ホストファミリーにも初日より英語が上手になっているよと言われたときはとても嬉しかったです。

### ・文化の違いを感じることにについて

オーストラリアの人と関わってみて、そのフレンドリーさと温かさを肌で感じることができました。通学中には公共交通機関のシステムの違いを感じました。特に驚いたのは、次に停まるバス停のアナウンスや表示がないことです。また、夕食時にも積極的にオーストラリアの文化についてホストファミリーに尋ねることで、多くのことを学ぶことができました。

一番印象に残っていることは、日本は20歳を盛大に祝うが、オーストラリアでは16歳と21歳を盛大に祝うということです。



上記の写真のように、日本とは異なる寿司や、ボリュームミーなランチ、オーストラリアで有名なベジマイトなど、食文化の違いもたくさん感じることができました。

### 3) これからの自分

初めての海外渡航ということもあり、渡航前は不安でいっぱいでした。しかし、文化や環境の異なる地での生活は、毎日新しいことばかりでとても楽しかったです。今回の研修で実際に海外に行くことでしか得られない、気づきや刺激があると知ったので、これから様々な国に行って、多様な文化や考えを学びたいです。

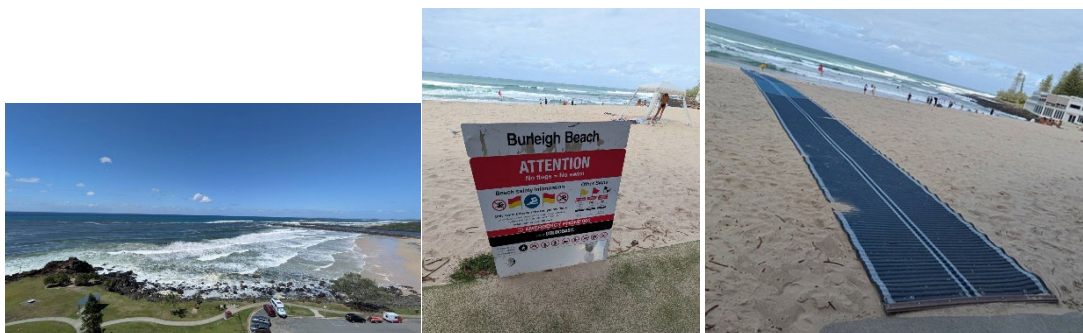
### 4) 語学学習

現地での英語レッスンは私の英語力の向上にとってもつながったと思います。ホストファミリーとの会話で大切な英文法や医療英語をチーム対抗戦やクイズなど、楽しくゲーム感覚で学びました。この授業では積極的に取り組んだり、発言したりすることで、主体性や積極性も身に付けることができました。また、既に習っている医療英語もたくさん忘れており、継続して勉強しないと忘れていくということを痛感したため、英語だけでなくすべての分野において継続して勉強するよう心がけたいと思いました。

### 5) 交流体験

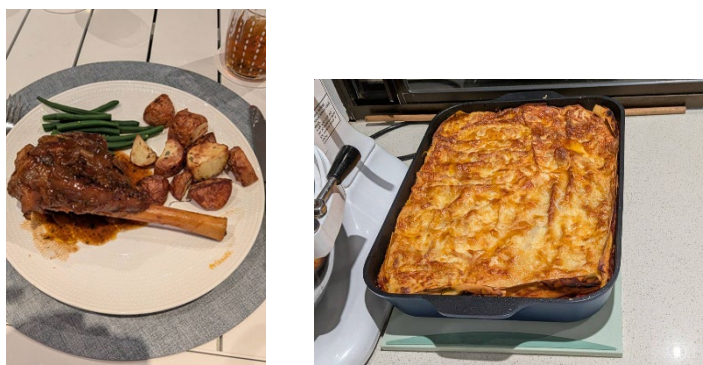
私はホストファミリーとの交流がこの研修で一番思い出に残っています。私が行きたいと言った場所に放課後連れて行ってくれたり、ご飯には私が好きだと伝えた食べ物をたくさん入れてくれたり、オーストラリアの有名な料理を作ってくれたり、私をあたたかく迎え入れてくれて、とても嬉しく思いました。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。ホストファミリーとの思い出はたくさんありますが、特に印象に残っていることをここではいくつか挙げたいと思います。

- ・学校のない土曜日にドライブで連れて行ってくれたビーチ



前日の夜に一緒に映画を観て、そのロケ地にもなっているビーチに連れて行ってくれました。道中の車内では、大学の制度や習い事などほかにもたくさんオーストラリアと日本の違いについて話しました。また、別のビーチでは車椅子の人が通りやすいように整備された道についても教えてくれました。

- ・ホストマザーが作ってくれた夕食



左の写真はラムシャンクという料理です。その日は日曜日で友達と外出していたので、日中はホストファミリーと過ごしていませんでしたが、その間に10時間煮込んで作ってくれたと聞き、驚きました。また、本来は冬の寒い時期に食べるものですが、私の渡航時期は夏だったのにも関わらず作ってくれたことには感謝しています。食事中には他愛もない話をたくさんしてとても楽しかったのと同時に、ホストファミリーが喋っている内容を理解、また、自分の伝えたいことを英語で話すことができていることに英語力の向上をすごく感じました。この時には、冗談を英語で言って、それに対してホストファミリーが笑ってくれて、何気ない会話を英語で出来ていることがすごく嬉しかったです。

最後に

私はこの研修が初めての海外渡航でしたが、実際に海外に行くことで、文化の違いを肌で感じることができ、考え方や視野が広がりました。また、オーストラリアの医療制度や薬剤師の仕事についても学ぶことができ、海外で働くことにも少し興味が湧きました。この研修を無駄にしないよう、これからも英語の勉強、多文化に触れる機会を増やすなどしたいと思います。

